

「日本一の健康長寿県」

Bさん：知事は、高知県を日本一の健康長寿県にしたいそうですが、これは素晴らしいことです。高齢化が非常に進んでいる高知県を元気にするのは、ある意味で高齢者ではないか。高齢者は第一線を退いても今まで貯めた素晴らしい知恵・行動力・お金を持っています。しかし、そういう人が元気なうちはいいですが、交通弱者になって身動きができなくなることもあります。高齢者が生活を維持するためには買い物・病院・役所へも行かないといけませんし、心を耕す芸術や文化に接することも大事です。そのためにも、ぜひ公共交通網を使いやすいものにしていく。日本一の長寿県にするためには、高齢者にもっと目を向けた政策が欲しいと思います。

それと、高齢者を高知県へたくさん呼び、あるいは住んでももらいたいと願っています。

知事：日本一の健康長寿県構想は、高知型福祉ということで小規模多機能型「あったかふれあいセンター」を作り、本格的に進めたいと思いますが、その時に公共交通のこともしっかり考えないといけないというお話はごもっともだと思います。高齢化社会に向けてどうしていくべきかという視点は、当然なければいけません。

移住促進は、高齢者の皆さんも含めてかなり力を入れてやっています。移住したいと思う人のご相談に乗れるような仕組みづくりが重要で、今年から県庁に移住コンシェルジュを設けて取り組みをしています。昨年度は問い合わせが270件あり、今年度は11月までで270件ありましたので、この機会を生かしたいと思います。高齢者の場合には、保健財政の関係とかの調整をどう図るのかは重要（な課題）で、できれば財政的仕組みは都会で、住むのは高知県というのが一番いいですね。

Cさん：知事は、学生時代に国内で旅行や合宿に行かれて、もう1回行きたいと思ったところはありますか。

知事：何度でも行きたいと思ったのは、龍馬のお墓があることもありますが京都です。それと、スキーをするので軽井沢は好きでした。